カネカの2026年度第2四半期(中間期)決算が発表されました

	2025年度 中間期	2026年度 中間期	対前年同期比 %	2025年度 3月期	2026年度 3月期	対前年同期比 %
売上高	3960	3974	0.40%	8072	8000	△0.1%
営業利益	191	150	▽21.7%	401	370	△7.7%
経常利益	144	118	▽183.%	329	314	△4.5%
純利益	102	110	8.70%	253	330	30.4%
営業利益率	4.8%	3.8%		5.0%	4.6%	

＊決算サマリー:売上高は増収を確保。営業利益は医療器は好調だが、塩ビのアジア市況低迷・MOD
・MSの欧米建築需要低迷、電材の需要回復の遅れなどにより、減益。
純利益は政策保有株の売却などにより増益

＊事業別概要:

化成・MOD・MS ：塩ビのアジア市況低迷継続。苛性ソーダの販売は前年を超える。MODは米国での住宅・建築市場の需要調整継続。MSは第一四半期を底に需要回復。GPは大型案件で顧客評価が進む。

発泡・建材・電材・PV・KL ： 発泡・・建材は価格改定、コストダウンなどにより採算性向上。PI,光学用アクリル樹脂は原料価格高騰、為替の影響で減益。PVは住宅向け高効率太陽電池の販売好調。KLは頭髪製品の販売好調。

医療器・医薬 ： 医療器は血液浄化器・カテーテルの拡販により、最大の収益の柱になる。北海道の新工場も早々に戦略化。医薬はバイオ医薬品の定修や販売案件のずれ込みにより低調。

サプリメント・食品: 還元型Q10は米国市場を中心に拡販進展。食品は第2四半期に入り価格改定・高付加価値品へのシフトが進むも、第一四半期の未達をカバーできず。

トピックス ： 日本ゼオンとの間で消化器・循環器領域で豊富な実績と技術力を持つゼオンのグループ会社ゼオンメディカル(株)の事業を譲り受ける契約を締結したと発表した。